

科目名称	作業療法基礎技法学実習
授業コード	AE151
英語名称	Occupational Therapy Skills Theory and Practice
学期	2024年度後期
単位	1.0
担当教員	大関 健一郎, 黒川 喬介
記入不要 ナンバリ ングコード	
授業の概要	作業療法の具体的手段である各種作業活動の中でも、動的な作業活動（陶芸、木工等）、および静的な作業活動（手工芸など）に関する知識、技術、指導方法を実際に行いながら習得し、それらを分析的に理解し利用できる能力を体得する。そして、作業 - 治療的応用についての基礎知識について学習する。
科目に関連する実務経験と授業への活用	本科目は上記内容について作業療法専門分野で業務に従事していた実務経験のある教員による実践的科目である。
到達目標	<p>ディプロマ・ポリシーに掲げる、様々な側面から対象者を全人的・統合的に理解する上不可欠な基礎医学的知識および作業療法を理解し基本的な臨床技能を実践できる【知識・技能】、科学的根拠に基づき、作業療法を実践するための基本的な科学的思考力、問題解決能力を修得している【科学的思考力】を実現するために以下の知識や能力を身につけることを目標とする。</p> <p>1.課題達成に必要な時間配分および実践の計画ができる。 2.課題達成に向け、自らが決めた実践計画（時間配分および実践の手順）をもとに行動できる（計画の修正を含む）。 3.目標とした課題を達成できる。</p> <p>（知識と理解） 作業を構成する各要素を理解する。道具用具用法を理解する。各作業のもつ特性を理解する。指導法を理解する。物・事の構造的理解ができるようになる。作業を治療に用いる際に、必要となる基本的な知識と技術を習得できる。作業と運動生理機能および心理機能との関係について説明できる。 そのために以下のことを体験学習する。 1,基本的作業工程を体験し理解している。 2,基本的道具用具の特徴を理解し使い方を指導できるようになる。 3,作業療法士の役割の中で倫理的配慮について理解することができる。 4,基礎的な治療的応用を理解している。</p>
計画・内容	<p>1)機織りを利用した作業療法（機掛け調整）（担当教員：大関、黒川） 2)機織りを利用した作業療法（織り中段）（担当教員：大関、黒川） 3)機織りを利用した作業療法（織り終盤）（担当教員：大関、黒川） 4)機織りを利用した作業療法（縮絨）（担当教員：大関、黒川） 5)革工芸を利用した作業療法（設計）（担当教員：大関、黒川） 6)革工芸を利用した作業療法（切り取り）（担当教員：大関、黒川） 7)革工芸を利用した作業療法（穴あけ）（担当教員：大関、黒川） 8)革工芸を利用した作業療法（染色）（担当教員：大関、黒川） 10)革細工を用いた作業療法（レーシング）（担当教員：大関、黒川） 11)革細工を用いた作業療法（金具つけ）（担当教員：大関、黒川） 12)七宝焼きを用いた作業療法（担当教員：大関、黒川） 13)電気工作を用いた作業療法（担当教員：大関、黒川） 14)木工を用いた作業療法（設計）（担当教員：大関、黒川）</p>

計画・内容	<p>15)木工を用いた作業療法(切り出し)(担当教員:大関、黒川)</p> <p>16)木工を用いた作業療法(担当教員(調整))(担当教員:大関、黒川)</p> <p>17)木工を用いた作業療法(担当教員(組み立て))(担当教員:大関、黒川)</p> <p>18)木工を用いた作業療法(担当教員(組み立て))(担当教員:大関、黒川)</p> <p>19)木工を用いた作業療法(担当教員(塗装))(担当教員:大関、黒川)</p> <p>20)針と糸を利用した作業療法 平面(担当教員:大関、黒川)</p> <p>21)針と糸を利用した作業療法 立体(担当教員:大関、黒川)</p> <p>22)道具学(担当教員:大関、黒川)</p> <p>23)総括(担当教員:大関、黒川)</p> <p>本授業は、基本的には後期月曜日1, 2時限で開講するが、早期臨床実習との兼ね合いで他の時間帯で実施することもある。実際の時間割は、後期開始前に発表する。また、自宅課題(宿題)も複数出す。</p> <p>(教員職名) 大関健一郎:作業療法士 黒川喬介:作業療法士</p>
授業の進め方	<p>・授業の基本的な進め方</p> <p>1)各作業の説明(講義) 2)体験 3)作業の特徴、工程、道具用具、理論をまとめたノートの作成</p> <p>*3)のノート作成は授業外時間での課題とする。</p> <p>*ノートは指定された日時に提出すること。</p> <p>*作業体験中、必要に応じてノート作成資料として作業写真をスマホなどで撮ることを許可することがある。</p> <p>。課題ノートおよび課題作品が試験開始までに提出されていることを、基本的に定期試験受験の条件とする。</p>
能動的な学びの実施	<p>体験学習</p> <p>シラバス内の種目以外にも、自宅での課題がある。</p>
授業時間外の学修	<p>授業前の予習は、教科書、参考書等の該当箇所を読み、不明な点をまとめておく。</p> <p>授業後の復習は、教科書、参考書、プリントと授業内容を関連付けて自分の各作業療法ノートを整理すること。授業時間内に課題終了し出来ない場合は、時間外にアクティビティ実習室を開放するので自習すること。(合計15時間程度)</p>
教科書・参考書	<p>相田盛二:図画工作・美術 用具用法事典 日本文教出版</p> <p>*特に版はない</p>
成績評価方法と基準	<p>期末試験100%、合格基準点60点(60%)。受験は、課題ノートおよび課題作品が提出されていることを基本的に条件とする。</p>
課題等に対するフィードバック	<p>授業中に質問があった場合、その都度フィードバックを行う。</p>
オフィスアワー	<p>「CampusSquareを参照」</p>
留意事項	<p>必修科目である。1年前期の作業療法基礎技法学から後期の本科目につながっている。前期で作業そのものが有しているこれらの要素を知り、分析して治療的手段として有効に用いる方法を医学的知識・根拠とに結びつけて考えられるようにし、後期本科目ではより複雑な作業を経験して作業・治療的応用についての基礎知識について学習する。</p> <p>早期臨床実習と本科目が重なるため、別紙で授業進行は指示する。</p>
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	<p>授業の進め方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アクティビティを郵送し自宅で行う。 ・zoomでのオンライン授業と課題学習を組み合わせで行う。 <p>成績評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学期末に課題レポートを行う(100%)。合格基準60%以上。